

学科 管理栄養学科	所感					
氏名 岸上明生	受講学生全体をカバーする一つの方法は、幻想であり、個別の学生の学習に対応する方法が要求されていると感じる。ICT 技術の導入が解決策であり、どのように包括するかを教育方法として試されている。					
家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa 型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。 イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。 ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。 ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。						
1 教育の責任						
私は家政学部管理栄養学科の教員として 2025 年 3 月の時点で 1 年間教鞭を振るってきた。その中で、2026 年度はオムニバス科目を含めて合計 9 科目担当した。右の一覧表に記載している科目は、管理栄養士国家試験受験資格取得に必修科目である。専門基礎分野の内容を身に着ける授業である。（添付資料 1）。 その他）管理栄養士臨地実習指導、学生指導、オープンキャンパス模擬授業、高大連携講座、など	科目名	学科	開講期	受講者数	備考	
	生化学Ⅰ	管理栄養学科	1 年前期 (2024)	64	管理栄養士過程 専門基礎分野	
	生化学Ⅱ	管理栄養学科	1 年後期 (2024)	63	管理栄養士過程 専門基礎分野	
	生化学実験	管理栄養学科	2 年前期 (2024)	76	管理栄養士過程 専門基礎分野	
	臨床医学実習	管理栄養学科	3 年後期 (2024)	62	管理栄養士過程 専門基礎分野	
	他 5 科目					
2 教育の理念と目的						
私の教育目的は、(1)卒業後も自ら学び続けることと(2)自ら考えた問題解決法を行動ができることを備えた人物の育成である。そのための教育理念として、自分自身の行動・姿を模範に示して、自然科学研究法を伝授することである。科学者として身につけた自然科学の研究方法は、自然現象を観察し、仮説を考案し、仮説を検証する作業を経て、仮説を検証結果に基づいて理論化する手順であり、経験的に体得できるものである。この方法を体得すると、自然現象に対して嘘・ごまかし・交渉などは通用しないために、真摯に事実と向き合う姿勢や根拠に基づいた論理的思考が獲得できる。						
3 教育方法						
授業内容の理解を補助できる視覚資料を多く利用する。これは、「理解することはイメージを持つことである」という考えに基づいて、学生が実際の動きや形がイメージできるように授業内容に関連した視覚資料の利用を工夫している。視覚資料は、教科書付録やインターネットより収集した動画を利用する。また、講義で用いるスライドもイラストを用いた説明図を作成している。授業内で小テストを行う場合、指定した教科書範囲の文章から重要単語を抜いた穴埋め問題を作り、学生が教科書を読むような準備を怠らなければ、容易に解答できる問題で行った。知識を問う小テストと異なり、定期試験では、論理展開や理解を試す問題を出題する。学生の利便性を高めるために、授業資料や予習・復習課題などは、ICT 技術(を用いて、配布・回収を行った。						

4 授業改善の活動
授業評価アンケートを活用し、授業改善を行っている。ただし、アンケート結果を得るのは講義期間の終了後である。また、授業課題によっては、学生からの改善意見を収集する機会となる。アンケートの結果に基づいて、改善を行ってきた（添付資料 2）。
5 学生の授業評価
2024 年度の評価は添付資料のとおりである（添付資料 2）。授業アンケート結果では、全科目の全項目で 3 ポイント以上得ているので、授業教育活動は、おおむね理解されていると考えられる。全項目が 4 ポイント以上の科目、一部の項目が 4 ポイント以上の科目、全項目が 3 ポイント以上の科目との結果から、科目内容や授業形態で改善点があると考えられる。科目ごとに授業を改善する工夫を進める計画である。
6 学生の学修成果
大部分の学生は、授業内容に求められる最低限度の理解を越えると考えられる。以下のような意見が寄せられていることから、授業の教育目標を達成している学生が含まれると考えらる。「こ学んだ内容は生化学 1 と繋がっており、それぞれの分野ごとにも関わりがあると実感した授業でした。」「化学の知識を活用して、健康や寿命に影響を与える原因を理解することで、今後の管理栄養の勉強に活かしていきたいと思いました。」「生化学の授業では、高校生の時の科学とは違い栄養や身体、食べ物に関わる科学的なことが多くて難しく大変な科目だと思ったけれど自分でプリントに書いたりする機会が多く理解を深めることができました。」
7 授業科目に関連した教材開発
担当科目内容の基本を網羅する教科書を選択しているので、その教科書の理解を補助するように講義スライドや課題内容を設定している。授業の説明にふさわしいアニメーションや動画を探して授業内で活用している。
8 指導力向上のための取り組み
愛知学泉大学家政学部が主催する FD 研修会や教育改善の方策のヒントになる資料を収集している。例えば、「How People Learn II 人はいかに学ぶのか」は、大学授業を行う上で方法が具体的に記載されているので、担当科目の改善策に応用することができる。
9 今後の目標
担当科目において、受講する学生の学力経験・知識レベルのばらつきが大きいクラス運営を行うことになる。このとき、学力経験・知識レベルが豊富な学生が、飽きることがないように、担当分野の高みを表示し、好奇心や勉学意欲が維持されるように工夫を重ねると共に、学力経験・知識レベルが低い学生が、理解不能に陥らないような説明と関連基礎内容の復習喚起する工夫を同時に実施する授業運営を目指したい。
10 添付資料
添付資料 1 「シラバス」、添付資料 2 「学生アンケート結果」